

# 令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

## 八重山地域材の販路開拓に向けた取り組み

8月4日(月)

石垣島で産出される材を中心とした八重山地域材の安定した販路を開拓し、地域の林業・木材産業の持続可能な発展につなげるために、令和7年8月4日(月)、(株)メイクマンの本社および石垣店の関係者と地域の林業・木材産業事業体とのマッチングを行った。

(株)メイクマンは、1975年に創業して以来、沖縄本島に7店舗、八重山・宮古にそれぞれ1店舗の計9店舗を沖縄県内で運営する県最大級のホームセンターである。沖縄本島の店舗を中心に、県産木材であるリュウキュウマツを10年以上取り扱う実績を持ち、一般県民の県産木材の入手先として非常に重要な役割を担っている企業であるが、八重山地域材の取り扱い実績はこれまでない。

はじめに、石垣市挽物協同組合の製材所を訪れ、組合員であり本地域で伐採から製材までを自社で行う佐藤林業の代表を務める佐藤氏から八重山地域材の特徴について説明頂いた。リュウキュウマツについては、沖縄本島と比較して径の大きな40cm程度の板材が安定的に生産可能であることや、店舗側の要望に沿った厚さでの製材も臨機応変に対応できる旨の話が合った。またマツ以外にも八重山地域で産出されるテリハボクやイヌマキ、センダン等についても紹介した。

次に、八重山森林組合が運営する林産物販売センター「麓」を訪ね、実際に、組合が販売しているリュウキュウマツやテリハボク等の板材の視察を行った。

両施設での視察を通して、メイクマン関係者からは八重山地域材に対して高い評価を頂き、店舗に出しても十分売れる見込みはあるとの発言も頂けた。

最終的に取引が実現するかは、今後の民間企業同士の商談の結果によるが、県としては、実現に近づくよう必要な支援を継続して取り組んでいきたい。



石垣市挽物組合の製材所、佐藤林業の加工場

林産物販売センター「麓」

(報告者：八重山農林水産振興センター 井口、砂川)